



吉川小だより

6月号

京都府亀岡市立吉川小学校

令和7年5月30日発行

〒621-0014 亀岡市吉川町穴川平田17番地 TEL 0771-22-1210

E-Mail el-yoshikawa@edu.city.kameoka.kyoto.jp



「がんばれ」 という言葉がもつ力

突然ですが、みなさんは、長距離走やマラソンが好きですか？ 多分、苦手だなと答える方が多いのではないかと予想します。私もあまり好きではありません。特に年を重ねてからは。小学生の時は、速くて得意だったのですが・・・。

ここでみなさんに一つ質問です。長距離走でゴールした後、体は疲れていても、レースを振り返って「もうちょっとあそこががんばれたなあ」と思ったことはありませんでしたか？ 私はよくありました。走っているときはしんどくて弱気になり、「もうだめだ」となるのですが。自ら気持ちを奮い立たせ、その限界を超えられるのが、プロスポーツ選手たちなのかもしれません。



少し前になりますが、5月の最初に体力テストがありました。その中に「20mシャトルラン」という種目があります。20mの距離を決められた時間内に何度も往復する種目で、とにかくしんどいのです。

それを今年は全校で取り組もうということになりました。吉川小のような小規模校だからこその取組です。

まず、4～6年生がスタートしました。横で見ていた低学年の子どもたちから、

「がんばれ～」 「すごい！」 という声援が飛びました。高学年の子どもたちは、その声援に応え、練習の時より良い記録で走った子どもたちが多かったようです。走り終えた子どもたちの表情も、どこか誇らしげに見えました。

続いて、1～3年生のスタートです。今度は高学年が励まします。すると、限界かなと思っていた低学年の子どもたちが、エンジンが再び点火したように復活して走り出します。表情もとても真剣です。彼らも練習より記録を伸ばしたようでした。

彼らの記録を伸ばしたのは、本人の努力プラス「がんばれ」という声援の力があつたのではないかと思います。それも、全校の仲間からの声援は格別です。真剣に力の限り走りぬき、「がんばれ」と声援を送る子どもたちの姿を見ている私も、心が温かくなったひとときでした。

校長 谷口 浩之